

2013 年度 関東地域ブロック 研究大会

大会テーマ

社会福祉学からの『発信力』（その2） ～社会にインパクトを与える社会福祉学研究とその方法論～

日時：2014 年 3 月 1 日（土）9 時 30 分～ 17 時 30 分まで

会場：日本社会事業大学清瀬キャンパス

西武池袋線「清瀬駅下車」。南口バスターミナル 2 番乗り場より、西武バスに乗車し「社会事業大学前」下車、徒歩すぐ。

<http://www.jcsw.ac.jp/about/outline/access.html> 参照

2 年前、2011 年 3 月 12 日開催予定であった関東部会研究大会のテーマは「社会福祉学からの『発信力』～社会にインパクトを与える社会福祉学研究とは～」でした。ご承知のとおり、研究大会前日に発生した東日本大震災のため、この研究大会は 2011 年 7 月 31 日に延期して、東洋大学で開催しました。

この研究大会では、現代日本の雇用不安、国民の生活不安の増大など、生活問題は多様化、深化していることに対して、社会福祉学研究は、生活問題の最前線にあって、これらの状況をどう受け止め、研究として何が出来るのかを議論しました。

2011 年研究大会前日に発生した東日本大震災に対して、その後研究大会では、2 回にわたって震災関連のテーマを取り上げて来ました。震災のテーマ自体が、社会福祉学からの『発信力』が問われるテーマでした。

本大会では、過去 3 回の研究大会を振り返り総括する意味で、社会福祉学が『発信力』を強めるために何をすべきか、社会に何を求められているのか、今回は特にこの研究方法論に焦点を当てて検討することにしたいと思います。

研究大会プログラム

9:30～11:30	【自由報告】 (1) 研究報告部門（報告 30 分、質疑応答 25 分） (2) 萌芽的研究報告部門（報告 15 分、質疑応答 10 分） (3) 実践報告部門（報告 15 分、質疑応答 10 分）
11:30～12:20	【運営委員会】
12:00～12:30	【総会】
12:30～13:15	【記念講演】 小原真知子先生（東海大学；2013 年度社会福祉学会学術賞受賞者） 要介護高齢者の退院援助に有効なアセスメント法の開発とその活用 ～社会にインパクトを与える研究方法論の視点から～
14:10～17:30	【大会シンポジウム】 テーマ：社会にインパクトを与える社会福祉学研究とその方法論 ●趣旨・位置づけ・枠組み 日本社会事業大学 大島 巖氏 ●シンポジスト 東日本大震災と社会福祉学研究の課題、その研究方法 駒沢大学 荒井浩道氏 ホームレス状態からの「脱却」に向けた支援に関する研究とその研究方法 日本大学 後藤広史氏 高齢者虐待にどう向き合うか・M-D&D を用いた実践モデル開発研究（仮） 関東学院大学 副田あけみ氏 地域移行・就労移行に向けた効果的支援モデル構築のための評価研究方法 日本社会事業大学 賛川信幸氏 ●指定発言者：森田明美氏（東洋大学）ほか ●コーディネーター：田嶋英行氏（文京学院大学）／山田知子氏（放送大学）

大会参加申込方法

日本社会福祉学会関東部会ホームページ「大会参加申し込みフォーム」に必要事項を入力の上、お申込みください。（ホームページ：<http://www.jsssw-kanto.jp/988.html>）

※不明な点は、併せて、関東部会ホームページをご覧ください。